



おうちで雨水活用をはじめませんか？

ポリバケツで雨水タンクづくり

自宅の屋根に降る雨をためて使ってみませんか。

雨樋の雨水を取り込んでためる雨水タンクは、手づくりで簡単にできます。普段は庭の水まきに使い、植物にやさしい！いざという時は非常用の水にも役立ちますよ。



取入口とオーバーフロー



手づくり雨水タンク完成例

つくる前のチェックポイント

- 雨樋の近くにタンクを置くスペースはありますか？
- タンクが風で転倒しない様に、風当たりの強い場所は避ける
- 雨どいに切れ込みを入れる高さは、【タンクの高さ+コンクリートブロックの高さ】より高い位置
- 雨どいの材質と太さは直径50~60mmの塩ビ製ならOK！樋を切るため、銅製では金鋸が必要

雨水タンクの材料

ポリバケツ

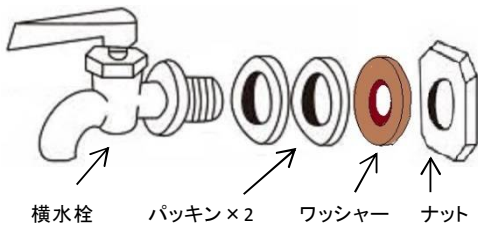
【参考価格】

45ポリバケツ:2000円程度



蛇口部分一式

【価格】1600円~



横水栓 パッキン×2 ワッシャー ナット

水道用ホース

樋からタンクへの引き込みとオーバーフロー用(タンクから排水場所)の長さ

【参考価格】

ホース:1mあたり200円前後

コンクリートブロック2個

【参考価格】

コンクリートブロック1個:150円程度



:雨水市民の会販売

(税別・送料別の価格です)

レインキャッチ

樋を斜めにカットして差し込むタイプ

【価格】700円

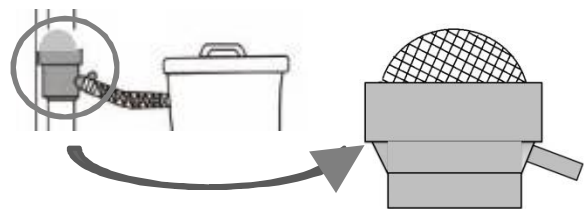


どちらか

レインテイカー

レインキャッチより取水能力が高く、ごみも取り除く優れたもの！樋を横にカットしてはめ込むタイプ。樋の形態や大きさに付けられない場合あり

【価格】2000円



お問い合わせ NPO法人 雨水市民の会
<http://www.skywater.jp>

Fax : 03-6657-1416
E-mail : office@skywater.jp

必要な工具

①キリ

太さめのものがよい



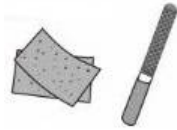
②ノコギリ

使いやすいものを選ぶ。雨どいが銅製の場合は金鋸。



③やすり

棒やすりは断面が半円又は円形のものを選ぶ(荒目の紙やすりでもOK)。仕上げに紙やすりを使う。



④大型カッター



⑤油性マジック



⑥メジャー



⑦塩化ビニル樹脂系接着剤



電動ドライバドリルと専用工具(あると便利)



チャックは10mmの対応のものが望ましい



自由鋸

回転やすり

作り方(レインキャッチを使うやり方)

① ポリバケツの底から約10cmのところに、パッキンの内側を使いマジックで印をつける。キリとカッター(又は電動ドライバドリル)で丸く蛇口が入る穴を開ける。やすりで形を整える。

② 開けた穴に、パッキンを取り付けた蛇口を差し込み、バケツの内側からはパッキンとワッシャーを付ける。パッキンのバケツが接する内外の場所に接着剤をつけ、ナットを付けて回し蛇口をしっかり固定する。(図1)

③ 雨を集める縦樋に、ノコギリで斜めに切り口を入れレインキャッチにホースをつけて差し込む。(図2)

④ ポリバケツのフタ又は本体の上部に、①と同じ要領でホース用の穴を開け、レインキャッチからのホースを差し込む。バケツ本体の上から5~10cmの場所にオーバーフロー用の穴を開け、ホースを差し込む。(図3)

⑥ 蛇口までの高さが30cm程度(蛇口の下にジョウロが入る高さ)になるように、ポリバケツの下にコンクリートブロックを2個程度置き、調節する。(図3)

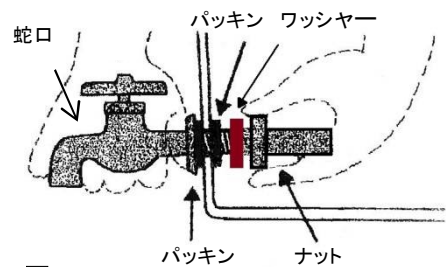


図1

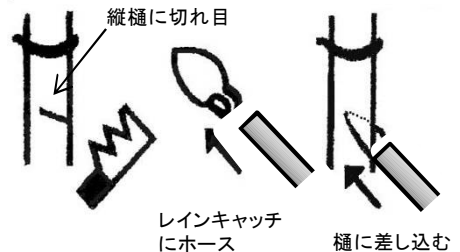


図2

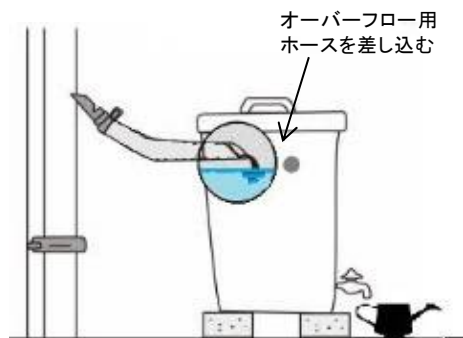


図3

※地震時の転倒防止のため、タンクの近くに家の壁やフェンスがあれば、ワイヤーやロープでタンクの上を固定するのが望ましい